

6月定例会を終え議会の課題を精査 決算特別委員会、議会運営委員会で議論



米原市民報

日本共産党米原市会議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党米原市会議員
藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

6月28日6月定例会が終わりました。6月議会での審議を踏まえ、議会の課題について議論がすすんでいます。1つは決算特別委員会で議論されているのが「決算特別委員会の議論が翌年の予算に反映する方策」の課題です。もう一つは、議会運営委員会で議論されている「常任委員会の構成等」の議論です。

決算特別委員会

決算特別委員会は通常9月定例会で設置され、執行部から提出される前年度決算を審議し、認定をするものになっています。

しかし、決算特別委員会の議論が翌年度の予算案に十分反映しないなど改善が求められていました。今回は6月定例会で決算特別委員会が構成され、決算の議論を進めることになりました。

今回の決算特別委員会の委員構成は次の通り。

- 委員長、山脇正孝（共産）
- 副委員長 細野正行（無）
- 委員 山口久志（天翔）
- 委員 後藤秀樹（天翔）
- 委員 矢野邦昭（天翔）
- 委員 中川松雄（天翔）
- 委員 堀江一三（マイバラ）
- 委員 山本克巳（マイバラ）

決算審査で委員長案

1. 決算審査の視点

- (1) 持続可能な財政状況にあるか。
- (2) 事業の成果は上がっているか、改善すべきことはないか。
- (3) 違法不当な収入・支出はないか。
- 2. 決算審査の基本的手順
- ① 計数の確認
- ② 適法性・違法性の吟味
- ③ 予算執行の適否
- ④ 予算目的に従った事業か

- ⑤ 効果的、効率的、経済的に執行されているか。
- 3. 歳入の審査
- 税収が伸びないという前提で財産管理を徹底する必要がある。
- 4. 歳出の審査
- 経常収支比率（2022年度95・7%見込）の削減目標値を決めるとき、どの項目の歳出を削減するのか。
- ・ 補助事業、特別会計などの予算執行の妥当性・効率性の審査。
- ・ 物件費の見直し（評価の観点）
- ① 利用者の満足を得ることができているか。
- ② 公共施設の効用を最大限発揮できているか。
- ③ 管理費が適切に公共施設の維持に使われているか。
- ・ 臨時財政対策債残高と今後の対応
- 5. 決算審査のための任意請求資料について

重点テーマと政策提言

- ① 業務委託・施設管理委託一覧表（委託内容・委託金額・委託件数・委託先）
- ② 補助金交付額・交付先一覧表
- 6. 重点審査テーマの設定と政策提言へー最後にー
- 毎年、数個の重点審査テーマを設定して重点的に審査し、予算に向けての政策提言を行う。

議会運営委員会

現在、常任委員会の構成について議論がなされています。定数が16人になったことにより、前の議会では4つの常任委員会（総務教育常任委員会6人、産業経済常任委員会6人、健康福祉常任委員会6人、予算常任委員会・全員）が3つの常任委員会（総務産業建設常任委員会8人、健康福祉教育常任委員会8人、予算常任委員会・全員）となっています。議案等の審議時間のアンバランスの解消や審議の充実と負担の軽減をどう図っていくのが妥当なのか審議しています。常任委員会を元の4つにして複数加入制や決算特別委員会についても、予算・決算常任委員会にしてはとの意見が出されています。

現在の議会運営委員会の委員構成は次の通り。

- 委員長 後藤秀樹（天翔）
- 副委員長 藤田正雄（共産）
- 委員 矢野邦昭（天翔）
- 委員 中川松雄（天翔）
- 委員 堀江一三（マイバラ）
- 委員 吉田周一郎（マイバラ）
- 委員 鏑田 明（天翔）



雑感

7月11日の健康福祉教育常任委員会で山本委員長が突然辞任しました。その理由としては6月定例会で、「学校給食の無償化」の請願で常任委員会で反対の挙手をした議員が本会議で「賛成」のボタンを押したことによるもので、委員長としてそのことについて十分把握しておらず、責任をとって辞任することでした。多くの委員から、過去にもそのようなケースもあり、議員もいろいろと考えた上での判断であり、委員長の責任ではないとの意見がだされました。しかし委員長の辞意が固く、委員会では辞任が了承され、後任には指名推薦で山脇正孝議員（共産）が委員長に選出されました。原因となった議員は大変悩まれ、賛成に変えられたことは評価しますが、市民や議員に説明責任を果たすべきだったと思います。